

熱海市の子どもたちが災害派遣で活躍した自衛隊を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一（一等空佐）は3月12日（土）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行われた、熱海市子ども会の見学に協力した。

これは、熱海市の子どもたちが、同市の土砂災害発生時に災害派遣活動を行った第34普通科連隊の隊員へ感謝の手紙を渡すとともに、自衛隊への理解を深めるために行われたもの。当日は子ども5人と大人6人が参加した。

参加者を乗せたバスが駐屯地に到着すると、まず屋外で同連隊副隊長・石田航二等陸佐に向け、小学生2人が災害派遣活動への感謝の手紙を読み上げた。

「自衛隊の方々の TENTO や高機動車があるのを見て、頑張ってくれていることがとっても嬉しく、安心に繋がりました」「私もお母さんのように災害支援ナースを目指し、自衛隊の皆さんと一緒に誰かのために頑張りたいと思います」と感謝の気持ちや将来への希望を伝えると、石田二等は笑顔で手紙を受け取った。

その後、参加者は史料館を見学し、歴史や自衛隊の任務について学ぶとともに、熱海での災害派遣活動を紹介したコーナーに見入っていた。

また、徒歩で駐屯地内を回り、隊員が訓練で使用する障害走コースや、規律正しく並んだ多種多様な車両を見学した。

午後は、グラウンドに災害派遣活動でも使用された宿泊用の TENTO や装備品が展示され、高機動車の体験試乗も行われた。実際に災害派遣に従事した隊員が胸長姿で登場し、「胸の辺りまで泥がありました」と当時の状況を語ると、子供たちは「僕だったらほとんど埋まっちゃっ。そんな場所でも動ける自衛隊ってすごい」と驚いていた。

その後、同連隊の任務を紹介する訓練展示も行われ、参加者は「行動する速さがすごい」「軍に乗れたのが楽しかった」「今回参加できなかった子どもたちにも知ってほしい内容だった」と感想を話し、隊員に感謝を伝えていた。

静岡地本は、今後も多くの県民に自衛隊の活動への理解を深めてもらうため、部隊と協力して広報活動を実施していく。



島田市入隊激励会



入隊予定者は、来賓からの激励の言葉や岸信夫防衛大臣の激励メッセージ映像に真剣に耳を傾け、これから立派な自衛官になるという決意を固めていた。

島田市長は「国防に任ずる者としての責任を毅然と果たし、国家の守護者となるべく任務に当たっていただきたい」と激励し、家族に対しても「私も子供が社会に出る時にはすごく不安や心配な気持ちになりました。多少の不安もあるうかと思いますが、どうぞ遅く成長する姿をこれまで同様、温かく見守ってください」と我が子の旅立ちを迎えた心境に寄り添った。

最後に入隊予定者が「今まで支えてくれた方々、特に両親に感謝しても、しきれないほどの恩があります。自衛隊で鍛え、強い人間になって、私自身の成長で恩返ししたいと思います」と決意表明し、盛大な拍手のもと入隊激励会は幕を閉じた。

藤枝所は、入隊予定者やその家族に寄り添い、不安なく入隊できるよう引き続きサポートを行っていく。

自衛隊静岡地方協力本部藤枝地域事務所（所長・宝保電平一等陸尉）は、3月14日（月）、島田市主催による「令和3年度島田市入隊激励会」を支援した。

この春晴れて一般曹候補生、自衛官候補生として入隊を予定している4人とその家族が参加し、島田市長、航空自衛隊静浜基地司令、静岡地方協力本部長、自衛官募集相談員など多くの来賓を招いて、粛々と行われた。

